

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を理解したうえで日常業務を意識して取り組んでいる。また、地域密着型サービスの意義や必要性を理解してきているように感じる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、回覧板による機関紙の配布や自治会の行事(花見や運動会)などに参加している。又、施設主催の行事の際に、地域の方々が慰問に来られたり茶話会やレクリエーションに参加されたり、交流している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議の住民代表(自治会関係者)や老人クラブ、民生委員の方々に認知症関連の議題を通して実践報告や情報提供、回覧板による機関紙を配布して啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、多岐にわたる広い視野で議題を設け、認知症や高齢者福祉、グループホームの運営、活動などについて検証・評価、議論しながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	霧島市内の小規模事業所で組織する『霧島市地域密着型サービス事業者連合会』や『始良伊佐認知症グループホーム協議会』を通じて、行政や地域包括支援センターと協働・連携している。しかし、参加は管理者がほとんどで現場職員の参加は少ない。		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束の定義を理解したうえで、入居者の人格を尊重しながら認知症に起因する行動障害を妨げない(拘束しない)ように心がけている。玄関の施錠を含め、厚労省が定めている身体拘束に該当する11項目の行為は実施していない。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	身体拘束廃止委員会が虐待防止の勉強会も開催し、基礎知識や事前防止策について職員は学習している。自分たちの日常の言動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	近年、単身(身寄りがない)や家族と疎遠の入居者が増えていると感じる。今後、人権や財産管理などの権利擁護、生活保護などが必要になった場合に備えた学習や予備知識は必要だと思うが、現在、こうした状況や事例がないため、積極的な理解と学習には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用契約に際して重要事項説明書で分かりやすく説明しているほか、介護保険の改定や変更などに際しては、家族案内を添えて随時説明している。また、金銭や人権に関する事案については、同意を得るなどの対応を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	親しい間柄にあっても本音を明かさないう入居者・家族もおられ、それを職員が察してあげられる“気遣い”や環境(雰囲気)づくりを大切にしながら、共感に努めている。面会時やカンファレンス時に要望等ないか必ず確認している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議を通して、管理者は職員の意見に耳を傾ける事を意識している。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者に上申し、最善・最良の対応・対策を講じている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、事務長ならびに管理者は職員の能力や適性、勤務態度などを職員考課で評価しているほか、人材育成や人員配置、職場の環境整備、雇用条件や福利厚生などに理解を示し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人代表者は、外部の研修にも公費による勤務扱いで積極的に参加させるなど、研修参加に対して理解を示されている。教育・スキルアップなどの人材育成に対する環境は整っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議を通して、近隣のグループホームと運営や業務などの様々な問題や課題について話し合う機会を設けている。しかし、参加する職員は限られ、職員間で意識の差が大きいと感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人の生活先を訪問し、アセスメントを通して不安な事や要望等を収集している。入居してからも、本人が不安に感じないような支援ができるよう心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>可能な限り、入居が決まった時は家族と面談する機会を設ける事を意識している。入居によって家族の身体的不安や負担はある程度軽減できるが、金銭面や本人との今後の関係性で不安に思っている方が多く、そのような点を主に解消できるように支援している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談を受けたとき、対象者にもよるが、入居は最終手段にしてほしいとお願いしている。住み慣れた家や地域で、その人に合ったサービスを提供できる環境があると判断した場合は、在宅サービスを中心に案内(紹介)している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>何でもしてあげる過剰介護にならないよう、残存能力(残存機能)を見極めながら、日課や役割を持たせ、介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる同志として、側面からの支援を心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにせず、出来るだけ生活する場面や介護に関わっていただく意味で、家族と一緒に過ごす時間(外食・外出・外泊を含む)をつくってもらえるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居された時には、既に人や地域との関係が途切れている場合が多く、一部の利用者を除いて継続した支援には至っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う(支え合う)場面づくりに努めているが、認知症の程度や性格等によって無関心だったり、自分のことで精一杯の入居者も多く、関係性の構築にはかなりの時間を要す。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでにサービス利用後も施設の催しや機関紙の配布などを通して、時々足を運んでいただくお付き合いはあったが、現在は年賀状だけの交流に終わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望んでいる暮らしや希望に耳を傾けるように努めている。自らが主体的に生活していると実感できる支援を心がけているが、加齢や認知症の進行と共に意欲や能力が失われ、依存・依頼心の強い入居者が増えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談でおおまかな情報入手し、家族や友人などの面会・訪問時に細かな情報収集に努めている。しかし、家族と同居していなかった入居者の情報に乏しく、十分把握できないことが時折あり。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の言動を通して職員間で情報収集、共有しながら意欲や能力(出来ること、出来ないこと)を見極めながら、出来ること(昔とった杵柄)を生活支援に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやサービス担当者会議・ミーティングなどで意見を出しあって、目標設定・介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日常生活の言動・行動を記録し、申し送りで共有している。介護計画が達成可能な内容になっているか・QOLの向上に繋がっているかを、モニタリングで確認しながら計画を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人の特性を活かし、併設病院の受診・往診・救急対応に伴う送迎や付き添いなど、家族に代わって対応している。認知症ケア以外の支援・サービスの多機能化は、人員配置ほか運営上の課題も多く、難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「敬老の日」「ハロウィン」「クリスマス」などの行事に際し、法人が運営する託児所との世代間交流による癒しはあるが、暮らしや生きがいなど、日常の生活支援に繋がる地域・社会資源とその活用はない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する病院(協力医療機関)や訪問看護との医療連携体制が整っている。病院にない診療科目(歯科・耳鼻科・眼科・皮膚科など)の受診については、基本的に本人・家族の希望先や以前のかかりつけ医との関わりを大切にしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の健康管理や救急対応など、併設する病院や訪問看護ステーションの看護師に相談・助言・指導を受けている。入居者が健康で安心して生活できるよう支援されている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者の入退院や受診・救急搬送先を、併設病院の地域連携室が紹介・受け入れの調整を支援しているほか、入院中の情報提供もしてくれる。退院後も医師の指示のもと訪問看護ステーションの看護師を派遣したり、訪問でのリハビリなどの支援によって、早期退院・回復が可能である。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>介護の重度化で寝たきりや看取り、終末期医療が予測される入居者に対し、本人・家族の意思・意向を確認し、医師や看護師を交えて具体的な対応を話し合い、希望に沿った支援を検討する体制は整っている。しかし、現時点では事例がなく実施していない。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備しているが、病院や訪問看護ステーションを併設している安心感から看護師に任せる傾向にあり、取り扱いには消極的である。こうした機器を使った訓練や講習会はAEDが主である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所主体の防火・防災訓練は年3回定期的に行なっており、そのうちの1回は運営推進会議を通して地域委員と一緒に訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しながら介護しているが、行動障害があり目が離せない入居者に対しては、安全対応を優先している時もある。入浴や排泄介助については、羞恥心に配慮しながら“さりげない”対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれ残存機能・能力、生活習慣が異なることを踏まえ、事業所・職員主導で生活させるのではなく、入居者自身が自分の意思で主体的に行動・活動できるよう、場面ごとに意思を確認しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や意欲に応じて、本人のペースに合わせた対応に努めているが、入居者の入浴日時や排泄管理など、職員(事業所側)の都合で曜日や時間を設定している日課や支援もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や外泊の時は髪を梳いたり、服を選んだりして整容の支援を行っているが、普段は着慣れた服装で化粧をすることも少なく、特別な場合を除いて歯磨きや洗顔以外は鏡に向かう場面が少ない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが何よりの楽しみなので、入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮している。介護度の重度化で“上げ膳”“据え膳”が日常的になっており、入居者もそれを望んでいるのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しているほか、個別に水分摂取量を確認している。意思表示が困難な入居者や摂食動作・嚥下・咀嚼などに問題を抱える入居者に対しては、細かな声かけや介助、食事形態の工夫をして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがい・義歯の手入れの励行を声かけ・見守り・介助している。また、口腔状態に応じて必要な方には訪問歯科診療を受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は自己管理能力や排泄パターンに応じて排泄用品の提供・服薬(緩下剤)・声かけ・誘導・排泄チェックを行っている。なるべく薬を使わない“自然排便”に取り組み、おむつは使わないように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤や整腸剤などの服薬による排便調整を行っているが、なるべく自然排便を促すために個別に牛乳やヨーグルト、繊維類(イモ類)の摂取、水分補給、運動(活動)を促しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴回数は週3回を基本に臨機応変に対応できるが、入浴時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝夜は人員体制の関係で実施していない(できない)。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと居室で昼寝をしたり、くつろげるよう、安静・安眠できる照明や生活音の調整、寝冷えや脱水を起こさないように空調管理にも配慮している。睡眠導入剤を安易に使用せず、自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・効能・用法・用量は主治医の指示のもとで管理しており、服薬内容は介護職員にも周知したうえで、適切かつ確実に服用されている。また、家族には定期的に服薬内容を情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、関心、意欲などに応じて日課や役割、趣味活動などの支援を行っている。中には、職員の支援を待つみの利用者もおり、自主性や協調性、関心や興味、意欲や満足感(達成感)を引き出せないまま終わってしまう場面(状況)もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて散歩や買物を中心に外出の支援を行なっているが、一部の入居者・家族に限られる。入居者からの自発的な要望や要求がないため、職員主導で実施することが多い。また、近年は高齢化と介護度の重度化で屋外活動をはじめ外出・外泊の頻度も少なくなりつつある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭への執着や管理能力は一部の入居者に限られ、ほとんどは職員や家族が購入したもので生活している。お金に困ることがない環境と買いたい(欲しい)ものが無いせいか、金銭感覚や使う意識が薄れていると感じる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族への用事や近況報告、帰宅欲求への対応などで電話をしたり、写真を添えたポストカードを作って近況報告の支援を行なっている。遠方にお住まいの家族にたいへん喜ばれている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂を兼ねたフロアは広い空間を確保しているが、人気がないと開放感より不安を感じるので、職員は空いた席に座って一緒にテレビを観たり、会話を楽しんで、独りぼっちにしないよう配慮している。夜間は部屋からトイレへの通路で転倒しないよう照明に配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間(食堂・フロア)としての“集いの場”に対し、個人や少人数でくつろいだりする空間、プライバシーの確保は自室(個室)以外にスペースはなく、工夫に至っていない。どちらかといえば職員側にとって入居者の所在確認や見守りしやすい環境になっていると感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、家族へ本人の馴染みの物や思い出の品を持参していただくよう働きかけている。しかし、現実には持ち込む負担や見た目を気にして、ホームの備え付けで済ませたり、新しく買い揃える家族が多い。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの設置、個々に合った自助具を選定して個々の生活動線を確保し、安心と安全の生活(活動)ができるよう、その人の能力や意欲に合った環境整備を心がけている。また、椅子やテーブルの高さ、肘かけの有無などに配慮しながら、椅子の使用を奨励し、車椅子の常用化防止にも取り組んでいる。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない